

私のIT活用作法

OSの標準機能を使いこなす

購入して失敗する前に

ペンを走らせるのとキーボードを叩くのではどちらが効率的だろうか？ X線像や口腔内写真をフィルムで保存するのとデジタル画像をディスクに保存するのではどちらが便利だろうか？

新たなIT導入に躊躇している方あるいはすでに導入している方も、こんな疑問をもつことがあるだろう。また、ITがもっと自分にやさしくなってくれればと思っている方も少なくないだろう。

ITをもっと活用しやすくするためのソフトウェアは数多くあるが、実際に購入してみると使い勝手が悪いものや、価格のわりには得られるものが少ないこともある。こんな失敗をする前に、一度OSの標準機能を見直してみることをお勧めする。

今回紹介するのは、日本語変換辞書の育成とMacOS添付のAppleScriptの利用である。

日本語変換辞書を育てる

日本語は仮名文字と漢字から成り立っている。仮名文字はキーボードから入力できるが、漢字を直接入力することはできない。この入力された仮

齋藤寿章 *Hisaaki SAITO*

島根県・ことぶき歯科医院

- 1961年 島根県益田市生まれ
- 1986年 日本大学松戸歯学部卒業
島根医科大学医学部歯科口
腔外科学講座入局
- 1989年 同講座文部教官助手
- 1991年 現在地にて開業
- 2000年 ホームページ上で「ことぶき歯学辞書」初版を公開



ことぶき歯科医院 〒698-0021 島根県益田市幸町4-71

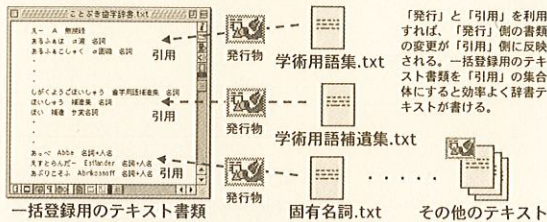
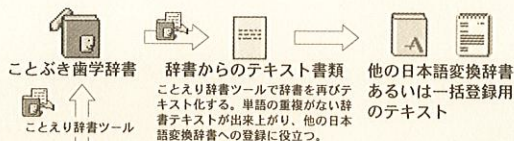
名文字を漢字や仮名漢字まじりの文字に置き換えてくれるのが日本語入力プログラムである。これは、WindowsやMacに標準で装備されている機能である。

変換しても目的の単語が出てこないという経験は誰にでもあると思うが、これは日本語変換の辞書にその単語が登録されていないためである。変換のたびに単漢字を探し出さなければいけないという環境は最悪である。変換されなかった単語をそのつど辞書に登録して、辞書を育てていけばキーボードからの入力は快適になってくる。とくに、人名や歯科用語を登録しておくことの恩恵は大きい。単語登録の方法には、一語ずつの方法と単語の読み・単語・品詞が書かれた文書を一括で登録する方法がある。

ことぶき歯学辞書

ことぶき歯学辞書は、歯学用語の入力をより快適にするために作成された辞書である。ホームページ上で試用版の公開を経て、2000年に初版をフリーウェアとして配付している。

http://www.geocities.jp/kotobuki_dental_office/



図① ことばき歯学辞書の作成過程

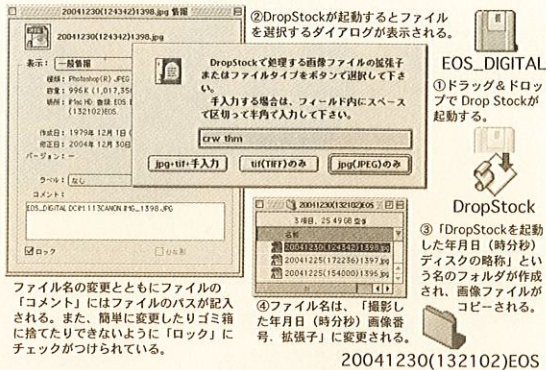
仮名-漢字変換、仮名-原語変換、仮名-記号・略号の形で変換される。仮名-原語変換では、歯科に関わる固有名詞と微生物の名前に限って原語に変換されるように登録した。たとえば、「あだむ」は「Adam」という語に変換される。また、仮名-記号・略号変換では、「えふでい」と入力すると「FD」という略号と「総義歯」という日本語が出てくるようになっている。

辞書を一括登録するための文書の作成には、MacOSの「発行と引用」をサポートしているNisus Writerというワープロソフトを使用した。「発行と引用」とは、データをいったん「発行物」ファイルとして書き出し、そのファイルを読み込む形でデータを引用するMacOSの機能である。発行元のデータを更新すると自動的に引用先のデータも変更される(図1)。現行のMacOS Xには、残念ながらこの機能は見当たらない。

AppleScript を活用する

画像を保存・管理しておくために大量のフォルダやファイルの名称を変更したり、一定の規則に従った名称をもつ新しいフォルダを作成することは多い。

それを自動化してくれるのがAppleScriptである。MacOS付属のスクリプト言語であり、アプリケーションの自動処理を可能にしてくれる。Finderは通常アプリケーションであると意識することはないかもしれないが、AppleScriptではそれは対



図② AppleScriptで作成したDropStock

応アプリケーションの一つである。言い換えれば、Finderによる操作のいくつかがAppleScriptにより自動化できるということである。

DropStock

DropStockは、デジタル画像を保管するためにAppleScriptで作ったアプリケーションである。まず、デジタル画像の入ったメディアをリーダーに差し込む。すると、デスクトップ上にそのアイコンが現われる。これをDropStockのアイコン上にドラッグ&ドロップすると、保存したい画像ファイルを求めるダイアログが現われる。ボタンで選択するか、手入力することで保存するファイルの選択が完了する。

あとは次のような作業を自動的にしてくれる。「処理した年月日(時分秒) ディスクの略称」を示した新しいフォルダが作られ、そこに目的のファイルがコピーされる。コピーされたらそのファイル名は「撮影した年月日(時分秒) 画像番号.拡張子」に変更される(図2)。

以上の動作を繰り返した後、メディア内の画像を消去するかどうかを尋ねるダイアログが表示され、するしないを選択したら処理は終了する。

ITの利便性を高めるためには、自分自身の環境に合わせたちょっとした工夫が必要である。見過ごしていた標準の機能に魔法の杖を見つけることができるかもしれない。